所属： 明石工業高等専門学校 教養学群

研究タイトル：「十日戎開門神事福男選び」の調査 高等専門学校における国際理解教育

氏名：	荒川 裕紀／ARAKAWA Hironori	E-mail：	arakawa@akashi.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士（文学）
所属学会・協会：	日本文化人類学会，日本国際理解教育学会，「宗教と社会」学会		

キーワード：	祭礼，地域研究，国際理解，異文化理解，日系人，巡礼，近現代史，十日戎，開発教育
技術相談 提供可能技術：	・祭礼・イベントを軸とした地域振興に関する具体的事例の提示 ・異文化理解・国際理解に関する手法や方法論の提示 ・阪神間における西宮神社の祭礼「十日戎」に関する歴史的変遷の事例の提供 ・開発途上国における高等教育に関する事例の提示

研究内容： 祭礼が繋ぐ地域社会と教育　キャリアデザインを念頭に置いた国際理解教育

1、 西宮神社（兵庫県西宮市）における祭礼「十日戎開門神事福男選び」の調査

兵庫県西宮神社で毎年 1 月 10 日に行われる「十日戎」における開門神事に関するものである。これは、毎年 1 月 10 日の午前 6 時に表大門（通称赤門）が開け放たれ、参加者が本殿に参るというものである。本殿に着いた参加者のうち、西宮神社は 1 着から 3 着を「福男」として認定し、神前にて報告したのち特別の祈祷を行う。この神事には例えば 4 年前の 2009 年には 6000 人を超える人が参加した。在関西のメディアはもとより日本の全国ネット、2008 年にはロイター通信にて当神事が外電されるなど年々報道は拡大している。本調査者の調査内容は歴史的変遷に関してのもの、そして自身が参与観察してきた記録などから分析した社会的機能の考察である。そしてその調査の結果を社会に発信することも目的とするが、それと同時に調査者が調査対象に入り込むことでどの様に変化をしていったのかについてのエスノグラフィーの発信を行う。これまで、行ってきた歴史学的・民俗学的・人類学的調査の結果が、そして調査者自身が、当神事をどの様に変革することとなったのかを記録として遺すこと行うことを目指している。

2、国際理解教育とキャリア教育

日本では、21 世紀に入り、国際教育の語が教育指導要領の中で組み込まれることとなり、多くの場所でその必要性が語られている。本調査者においては、他国の国際教育の事例や教育施策などを調べ、高等専門学校をはじめとする中等・高等教育の現場にいかに取り込むことができるかについての考察を行っている。

とりあえず、世界の現実を知ろう！とする教育から、世界の教育現場でどのようなことが行われているのかという現実の報告を現地と講義をつなぐ形で実践を行うことで、学生たちの国際センスの涵養、「世界に打って出る」人材の育成に寄与していこうと考えている。そのための国際教育・スタディーツアーとはどのようなものであるのかの模索、モデルプランの作成にも力も注いでいる。

提供可能な設備・機器：

特になし